埜集

俳集

半掃庵也有著

送月雲　文撰輯

歳書　讃物記

江戸いそ帰郷の去

秋ゝ去ゝ去ゝ去ゝ去ゝ

福ゝゝや去ゝ去ゝ去ゝ去ゝ鶴ゝ去ゝ鶴ゝ去ゝ

四十九の元ゝゝ

いそ遠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

江戸にて求めし
紙帳一の山をそなへ
置て夜あけの花ちるの春の宵
四十二の
[illegible]入り
[illegible]の海
[illegible]
なのりや[illegible]
[illegible]の方々[illegible]の[illegible]

[illegible]国[illegible]
[illegible]川[illegible]の横[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世の菊に陽を添へ池の水
清茅の東後の池にて
池ちやくしゝ木下の秋の閑
都長く物の場下
家美やくちかの所あるを君の門
牛車早く待ちに
手の茶や今朝ちの雪の強
夜明方とりし八幡の鈴聞

きれやこれにてこれ御の毎
高きのの
いけ作ちむ山の秋ちの菓の茶
嘆要ちてこれ長くなを弟
秋きちくさ山の所の御の後
商家早く折りし
池ちやりに於て今年の新
世の長を懐みて片手に
ちをちれ長に

[illegible]

新たに[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]十の賀[illegible]の画賛

[illegible]一枚の[illegible]

[illegible]世[illegible]の賛

[illegible]時の

[illegible]の[illegible]世[illegible]の風[illegible]

[illegible]の賛

[illegible]

[illegible]の賛

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

いはゝ柳ちるとて毎の一ちるに
西行ゝ法師ちり柳
第いに嵐の白ゝ
ちる柳の緑や嵐のさゝ分かな
宇治川の波ゝ
第細ゝて柳ちる宇治の宮ゝれ
西行
蓮の実ゝ中ゝ蓮ゝ蓮の音

柳柳ゝ中ゝ波ゝ
ゝゝ中ゝ方中ゝたゝ出の波
庵の時ゝ波ゝ
をゝの宮の命ゝ書れて庵の音
ゝ出ゝ牛の面ゝ
行竿ゝ出ゝ牛ゝ氷のゝ
牛ゝ嵐ゝ羽出ゝ
男人の数ゝ嵐ゝ牛の波

大王の歌

雲年やたかく如まてあり年

夫の歌

わすれなく常きて 朝

伝宝の剣を秘蔵一条

人の主をもりて法を常に

家の見れを

七日先こそ利勢を笑寸

刺屋に、姫のうつの美佐

所下庵の絵に、

白象の御り細作庵のあ

業平見けた神は志賀の西

立ぬ志こもの年かれ鶯の声

白象こもの歌

小野宿に尾の初花

序作る事小の作

やかてえん山をあいまり所月

布袋弥市郎画

未かしいに絵を仕せて沢市に

芳丈をく作る

かるさしを尾ゑて又をて蝿掛

琴にに岸の絵

琴のきに猫ゑかせよ牡の芍

牡丹に蝶の画

侍るるまや寄く行基の庵

牡丹に雀の画

牡丹に蝶て頭ワきれかく付さと

竹の枝に小さ

雪に雪さ降ち牡丹の花の枝に

師をサ三月を之者のサ三四月

なまんをさ筆おりて為

俳半月を之者八九月十三日

絲細く雪ちらして峰の月
和嶺　東川ときえ
詠ておれて人の藤雪し小春
東亭　昴兵
月も一チ　雲も二階のこゝろ泓
某ヶ宅二々　同れきて都しに
目やえん　時鳥や守む　二季叟
東川　稿中作　二句

あかれや鐘きく舟大井川
まき宮し露ちら舟十四子
涼川某ヶ別荘にて
あけや風人を柳下立の月
大原流ゐく
あし比の古浴あれも四は
鶴年の藪ていふ凱るく
千代よし　露春中より　根芥摘

石松毋の降り
あの世へ仏せうと四月ゟ
巴郡へ帰ゟ
別れうと又まれ生の秋迄
三年写事ハ猿中
きのふ千さとの新しゆ御又後
大雪ゟ
交市ゟうと又ハ病ハ

江戸ハ
昨ゟ花ハ月の光ゟ日本橋
四月ゟ
ゟ花ハ鶴ハ
俳別　三ゟ
初原ハ鶴ゟ今ゟ
賀仕ゟ猿屋ゟ
宝光寺ハ東原て

等拔より本まるの板を以
本号陸を以て埋まり外別
多かるべしと思ひ山を掘れん
舞三を突き
設てこゝに妙人なる物如
江戸へ下る人を呼し
仏を為に掘けば都に成れり
十日人の四十の望に

時分に成を掘れば
久一物にて是れ人
中の声 中の切れる たつる
六百七四月に
月又西に辰巳人の為に
きれ一列 ヒ、七四に成とす
汁まるに一列に成れり古墳
動くに成の動き
上冊 道やその人 董 却

探しの画に雪なしけ画

酒の名も外の事あらし八橋に雪
西国に行れに出る今は都で
よし野もみちを出る身の嶺　時
戦にいりの姿に
なすの上に光やすらく銅白水
風に入の外にて観る
竹うらく世を思ふに志きれ人う

富士の夢見ては画に
写し後をとりけり
まれおんほ枝見の　福寿や富士の夢
菜見にけり
手本こそ千代をためすなる筆絵
布袋の絵
時をしる鶏も声やましき之
牡丹に子の画

[illegible]
大根の大根を抱く図
小童よりも小さい子の名大根川
牛 何の車の上に乗て牛に
[illegible]
[illegible]の曲 [illegible]牛に川を渡る
[illegible]の図
[illegible]の[illegible]に[illegible]前

[illegible]
[illegible]に[illegible]の花牛に
[illegible]に[illegible]に[illegible]
[illegible]に[illegible]の画
[illegible]猫に[illegible]の[illegible]
[illegible]の毒の画
梅花の画[illegible]
高山中上[illegible]
[illegible]に[illegible]の[illegible]

高い嶽を描く

糸吉郎と四月の風呂

仕事の多い嫁に出た

その人は吉さんたちの多い

彼は傘を畳に画く

男の方は[illegible]して彼は傘

画の後

角の岩の上に[illegible]

男は洋服の画

年寄りはそれぞれ[illegible]

福寿草の絵

祝儀に出た[illegible]

白地の[illegible]

[illegible]

[illegible]

八十の賀

五人の子のとゝ蘭や生の枝

不二の画い

四方山を画いたる婦人の賞

柳下鷺の絵い

雪舟の川柳い書き絵れ

西王母の絵下

梅絵くるくる紀家の新絵い

常絵のとゝる画い

集いたい陽くも欠けの絵市ち

同一くこの月を指さを絵い

柳に小鳥い柳下に和一三の月

三清の画い

積雪も和い竹に雪絵

紫花の鳥れ絵

鶴の子鶴さを春の陽陽市も

計詠の月見記にて

振りかへり見まし川 外や 世まぬる

九月十三佰舞のむかしより

法し枡をかりうけれに口まさふ

名月や枡を佰舞つれし枡

法華所の西に

これ飛も月見にわうて 諸ての

同しく縁に

深のたれ飛ありて雲に借るけもの

弥の飛へ入るる

まこ寒しとや妻騎の中わたり

ゆくの西に

色の尾ふに秋やはなこ

仏の影を浴眉ようて時なと

涌れ西に

料として谷やしろに三筆山

女の帯に蝶を折り絵
さまれ蝶 袋に入れ 寄せ合ひの美四む
布袋の帯に指さん絵に
ちひのさんかいさを平蓋の三の作り
狐子の帯の両に遊る画
狐子の帯や元に花ハ咲き材時の
渡に月の絵
猫の身や姿に出る海の作

布に鞠を蹴る絵
まりや又元もん流る 布めん
庵子の布袋の年を引く絵
かるかと年引むけ 時の
霜月海鯨羽十三四七
蝶の魂まりをりや雪の花
山の方に水の絵
邪に山に帰を出りの花せる

ふくろの出生に
生れ弱き無て少々　縁の口
出めしてにて返えて
出ろしに差川　出来　宿　借とも
婚の梅の塩に相のつく画
相のさつく嫌も出つく　花の名
露にも清く
駒々おは　折薬さま候し　林の草

布袋の婚く染に有りれ画
こる川　かしこまく　袋に名築
墨絵の梅に
要も出て　墨に　咲香林の名
門借に　権の画
少しし　の雛　初の　新の者ともかも
山水の絵に
官一桙　おせ　月ものり川　取急り　八

坂口の牛に乗る図

牛乗る人は坂口の茶屋

本の茶屋の絵

茶屋にて掃き屋敷物を本の摘

茶人を乗り一人八物乗り

共に乗れ　金ちゃもりて

江戸に下れ初旅をえらく

初霜の坂口　旅をえらぶ

沢に鶴の図

時鳥も鳴く川沢を夏来る

牡丹に稲穂の絵

稲に穂に絵の写真

新の茶屋

望に小さく作り牛とさハぎし

三番の祝宴の義をふたり図

鶴の開のうちみやりの枝さし

桂本に、春の画

年ましに見に行かんと思ふ

七夕の絵に

みちのくに新川や北海へ

春に、夕月の画

却て時雨に山ずみ

月の末像に別れ

俳諧に、海と月の句

鶴の図に、冬ごもり見や浦の秋

蛤に雀の絵

たまゆらの黄ぬくもりの菊の

冬ごもりまさに稲つゝの画

ちゝ母根にかけて時雨哉

秋の絵に

雨に世ゝ吹しく落葉哉

布袋の画に

月なみのあやかりたし布袋腹

滝浪に遊れて影の風情
のぼれる画に

遊れなく滝にのぼる畔鳥

汀に鷺の画

先しらし露川辺の鷺の羽

松に鶴雛の画

身の程かつて下松も越の冬

年内立春の題にて

春立や先へ所し暦かな

宝珠の画に

露も玉ならて露も以ちから

布袋笛ふく画に

ひとりにてはされしやかふ二人分

海老の数に添てまかせける

桜にわさく　海に柳の髪ハ乱し
鹿子の玉散る絵なり
おてしるやうにゆく柳の露の玉
芦なり　秋の画
柳の筆　ふるて消て　柳小町
竹に鳥の画
竹の葉の節　蒲けも立もあし
家々の絵　梅も出る

秋くれれ春の色　菊や梅の花
人の形はゆく　中にも掛て
古今の歌よみし　昂春の絵
歌よみし　菊合　門の蝶もし
楼閣の画に
古今集の世もたえなる絵かれて物の見
柳に庭の画に
春　柳のいろに　様を見え兼　小

[illegible]の画に

山巻へ[illegible]の[illegible]に[illegible]

大[illegible]の袋を開く中に

寒[illegible]のあれ画

[illegible]の[illegible]

[illegible]に[illegible]の画

[illegible]に[illegible]

[illegible]の両に[illegible]の絵に

[illegible]月に[illegible]時[illegible]

[illegible]通の画[illegible]の傘に下[illegible]

[illegible]

下[illegible]に[illegible]

[illegible]に月の画

[illegible]月の[illegible]に[illegible]

[illegible]の絵

[illegible]の絵

[illegible]の市

[illegible]の絵

[illegible]稲州[illegible]教[illegible]

[illegible]鍋城の図

かまさかの[illegible]の[illegible]い[illegible]絵

[illegible]二[illegible]の絵図

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]義[illegible]の[illegible]の図

[illegible]の[illegible]の中

[illegible]の作い[illegible]の絵

[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の図

[illegible]の[illegible]の[illegible]の図

[illegible]の[illegible]の図

[illegible]の[illegible]の図

[illegible]の[illegible]の中

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

[illegible]の[illegible]

世の風俗いと一事の抑止
抑いと美葉性の絵
毒を折る人の陸に入る美描
北第の絵
第三の紋い抑や北第
三第の学ぶ所
三人のあまりの口い乳
袖の抑い鈴の画

鈴や入る牛のこと所
女の帰りし方の絵
第い場の花の姿や世の
七十の髪い角前の絵い
須をとる人
三毎に抱いとくや紙なり
白菊は袋の画い
玉い寄合かさりや寄の白菊袋

大原野の[illegible]の画

[illegible]

秋寺社寺納

[illegible]の初稿

[illegible]の画

[illegible]の人[illegible]

[illegible]

本命の一張白雪の作

本命や新[illegible]

浦岩の画

[illegible]心

[illegible]の画

[illegible]始皇も雪に松の作

[illegible]の作

[illegible]の孫[illegible]の[illegible]

柳うけいこの枝金子画

遠方より来たる桜の弱

布袋の図かきて

かきたるもいと珍しく

貝を首にかけ画

業平のこと思ひ出て

四季にかけての画

四季うつりかはりの画

石柳の絵に雨の絵

灯籠に火を置き時雨

梅の絵

むら雨に紅に折る美人

孔雀に鶴半の絵

鹿に牛の絵

夫大きの方宋弘の絵

万年の華に鶴を方相

帆掛の画

帆掛舟を水ちゝ[illegible]

中秋名月

月紙又は月のうつくしき画の月

雪の鶴を付て画

[illegible]

布袋の隙を拾ふ画

懈怠の[illegible] 椿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

睡猫の画に

思ひ寄る猫にけふも又かくる

風の竹の画に

若竹のそよぐや節の新より

枯木に鶴の画に

木がらしの線や翔りにちれる鶴

松に帆掛の画

帆掛や来に交ふる冬木立

こいの画に

池の水夏も見えぬ鶴外

若竹の画

あくしほに生れ生れてあけぼの竹

山に帆かけ舟の画

舟一艘さくさく海の名所の絹

大星の拙きを思ひてかきよする

拙くさく俳諧数や春しの若

波うりの図

活年に当たるもの初見

結のように新の見に咲かせて

咲くこと久しかりけり

老年なるうち新しき世の

寒山暮るる後

春の雪のやや寒しちらし一本

尾張の名所にうつるとなれて

阿波多くそのやうにやはりて

咲くもの一の図

今日以上の如き草の多く

秋萩の松に白を交ぜ

仙人の由きゝ書の重世時

蓮の葉の咲く、西信濃の図

分を西信の茶うの色を八金

咲く、小角の絵に

おもしろき所々ありて物をさしげ橋

業曙うしに、ろ今と持ちる西に

さみのもとにて屋や車の糸

弁ろ命婦殿と毋絵に

一声に洞のうちうち鳥

梅に鶯の西

鶯に咲くりまもしもあの糸

絵のうしに所ちて所ち絵に

月にさくあしむらさきや物おもふ

牛の頭雑の日

心ある扶下ありしかも書牛

市賀の毋に鶯ちる西に

人来やや毋とのつつ扶時四

帝に、鶯の絵に、

主の鳥に帝に鶯に四月に

冥中鶯中苟て美り

入江流よしみて三嶋の縁に
写して後ならひけり
富士を見て下国ら筆の三保絵し
初ゆめや梅の峯にまさて入れ
駿河より多にそ写し初夢ぞ
凡二月ヨり夢ならまいらす画
摂津川夢に浮の後をなかり
蒹葭の縁に

入江の此筆をち蒹葭は
友に録て和写人へ写る人に
先川岩となりぬしとめでされ
改年の人へ縁れ
座様くゝ白如そ関とて移りあらむ
山水の如きゝに
雄将まり新や墨縁の此本き
八月十六夜人の澤みて

[illegible]の十三夜

山谷堂[illegible]

歌よりも[illegible]待[illegible]堂の白い汁

亡父の四十四[illegible]

[illegible]

初汐や[illegible]

[illegible]の水に移る西[illegible]

[illegible]河に有

墻に[illegible]の西に

[illegible]

牡の[illegible]

かく[illegible]の一[illegible]

[illegible]の人[illegible]

[illegible]

[illegible]の梅[illegible]

[illegible]

途中

華やり遠貞しれにやかくつうり
　ふつ序ら墨絵の書にれて
湖しも世に名の海寒し雪あけ
　女の振のめとへよう浮世絵ハ
和子の名ゝ折ましれとく梅は
　茶顔舎の紋をみて飛ら鶯ハ
主能り筆中に氣色やつれし
　春ハ三嵩陵の絵

松に舞上雄鶏や余れ破寿し
　多形に和筆の画
手珠にてハ無毒ゝ海く飛め姫
　万春の画ハ
七川気しく方や梅かて和唐
　牛の画八十の賀
千代経ると川や行人子やみえ
　草刈の笛ふく絵ハ

みとせいく年にはいけん翁
手似に傘を霞まれ画に
雪嶋しも雀も松の山傘の下
翁の讃
壽ろを営む雪荒ともも松笠
松の枝より鷹の画
雪のりそ又竹に悠もその柳
神農の像に

卅哉や遠ばけ卯しく若葉かな
朱に雀一羽の絵
朱に暮れゆく一羽松の鷹
棕櫚の画に
山川の畔かや古あかに風の音
雲中に鶯艦の絵
雲寒き歌や和き剣かな
菜笑らの画

[illegible]

[illegible] 銘 [illegible] の器

[illegible] 蝶 [illegible] 紙 の [illegible] 絵

帆 [illegible] の 絵

帆 [illegible] [illegible] の [illegible]

大王 の 半 に [illegible] 画

巴 に [illegible] の [illegible] 明 の 年

[illegible] の [illegible] の [illegible] 画 に

馬 に 何 [illegible] 昆 [illegible] 虫 の 変 の [illegible]

[illegible] 兵 の 画 に

朝 [illegible] 中 [illegible] に [illegible] [illegible]

庭 [illegible] の 絵 [illegible]

庭 [illegible] [illegible] 中 [illegible] 柳 の [illegible]

[illegible] に 雪 [illegible] の 画

[illegible] 信 中 [illegible] 持 に [illegible] に [illegible] 年 の 雪

馬 [illegible] に 鶴 の 画

表かくらをうひ給ふ明の新
御の寺の常住の宮殿門立ち給
信ぐて敬くはるかに寺の門
宮の給へ
そのまゝ立ちて麻呂宮の教
六年の常ふ北を見へ
水鳥や雪ふる所の水
墨絵の書へ

墨の絵の書を出れる絵
かゝる松の西へ
引ぐて行て月出て秀ぐの月
ふれを悔
絵を加る秋まむ一人のうぐれ
ふぐ屋の家生へ
敬ふを御ぐいふ時ぐ汁
蓬ふ上ぐ家をぐへ

[illegible]

木綿の西に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大王の牛に[illegible]る西に

[illegible]牛[illegible]年の市

[illegible]の[illegible]に[illegible]る西に

抹茶[illegible]

[illegible]

家の[illegible]

舟の[illegible]に[illegible]の西

[illegible]

[illegible]の西[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]い、庵の画

庵の[illegible]と、[illegible]い、山[illegible]の[illegible]

[illegible]を一幅[illegible]画い

[illegible]川[illegible]て[illegible]

[illegible]い、婚姻の画

[illegible]い、鮮の[illegible]

牛

[illegible]の[illegible]画い

[illegible]の[illegible]

布袋の坐[illegible]画い

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]画い

[illegible]や[illegible]

墨牛の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]山[illegible]

[illegible]

五毒の絵

紅梅に白梅に桜に柳

梅に鶯の絵

鶯に柳に桜に梅の花

鶴の絵

白菊に白菊の花の絵

蛸の絵

絵に又や梅に蛸の絵

梅に鶯の絵

鶯に柳に桜に梅の花

天神に牛酒

菖蒲に梅の白い菊

鍾馗に八仙の絵に人の絵

牛蒡に家鴨に花の絵

蓮に鯉の西に

鯉に鯉に鯉に鯉に鯉に鯉に鯉

人の七年忌に、
七年おもひ入たる事の一枚絵
六月巴蔦七四忌に、
盆狂て色紙短冊に蓮の葉
牛蒡の画に、
海鼠に指合はせる牛蒡
七月三日の立秋に
十一年忌に入ちがさう三月の月

鄭の寺に鶴絵の画に
屏風に竹に岩に、石に菊
岩に菊の絵に、
菊の兵衛なる人や 菊の花衣
手紙に菊の蔓に付る画に
ワキにして雨と竹を手紙に
菊の花をよく張り
叭に手に物に手せる 鼎

雪の山ちの西に淺を流れて
上毛なる禅一にて云給ふ
深山を人とみくまん雪のうく
高ちみい山峯の西
高ちを高ちに姿ちに姿ちみ
山ちの陰の西に
山ちを霜雪ちる時一ちのを搖
正月山ちに辛す有ふ名ふ峰也

十ちちに呂ちて義多中初唐
ちに拾を作
高ちを高ちに悲一ちの高ち
潜ぬ前の若葉塚に結ぶ
塚ちを浮む美を思ふ水を
梅ちの西
月ちの山ちの西ちの淺を
新田を高ちに生ちに結ち

[illegible]海棠や作て話見
[illegible]い、官女の画
こ貴[illegible]や梅に柳髪
むめの画、
富士何年、[illegible]の絵
[illegible]の絵
[illegible]分を喜ぶ年の市
人の像[illegible]、

物いふ[illegible]
猿猴の画、
秋の[illegible]
高[illegible]い、[illegible]
こ[illegible]
芭蕉の画、
[illegible]に立芭蕉
[illegible]の絵

[illegible]

時雨しぐれの後

[illegible]や後世入りの色帝

布袋の市く指さしたる画

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の

公方様ハ紙ハ[illegible]
[illegible]
四くゝれ[illegible]と[illegible]
[illegible]の[illegible]縄[illegible]嵐の画
嵐さくもゝ[illegible]の[illegible]
[illegible]義い[illegible]の画
本[illegible]
人[illegible]

人[illegible]
[illegible]
[illegible]の中い、[illegible]
[illegible]
物梅[illegible]の一[illegible]
[illegible]義[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
毒北ゟ一日信ゟ[illegible]
岩ハ、[illegible]
ゟ[illegible]
松の間ハ月の絵
山ゟ[illegible]
海[illegible]
昆の[illegible]絵

金ゟ[illegible]
岩ハ夷の絵
市ハ[illegible]
大[illegible]
宮一絵ゟ[illegible]
[illegible]の[illegible]ハゟの西
[illegible]
牛ハ[illegible]の西

おくのかたの
きのゝ西に
松しゝまちるゝ紅葉かな
立ノ
佛ゝゝ行ゝ聖の
宗ゝの西
家ゝゝゝゝ
みゝの柳ノ陰の絵

ゝゝゝゝ
ゝゝいゝ結髪の西
ゝんゝゝゝ花ノ月に塩八家
彩の西に えりの人ゝ
愛せゝゝ
えりゝ彩ゝゝゝ
塩ゝの絵に
藤塩ゝゝ

[illegible]の浦北部に
海士郡[illegible]
小角高に、毛の張
十二の[illegible]毛の東
養津の部に[illegible]新の白れ
数をのこす
[illegible]代や[illegible]川
[illegible]高の西に

なる高や本[illegible]刻本[illegible]
大[illegible]に、白嵐の西に
正月の[illegible]
[illegible]白[illegible]
達[illegible]の数
[illegible]高や[illegible]九年の新[illegible]
市[illegible]
一市[illegible]

布袋の天八ゝ画、
ゝ風にて孔雀牛ゝ等の事
拙き画、駿藝画
初雪に見事なる一つ雀
こゝ[illegible]しい錦鶴の画
かまきり乃谷と白ゝ[illegible]
子達利勢の人ゝ[illegible]
利拙ゝ[illegible]八幡の八中小

六ゝ初の漢
確[illegible]ゝ事体世[illegible]
刈四ゝ丁の画
子鶴ゝ刈おゝ[illegible]の声
宮市一梅
ゝゝ[illegible]むの白い汁
寺玄人の海ゝ藝象の
ゝ[illegible]画

出仏ゝ出お仏ゝ万仏ゝ
福徳諸尊の絵
折〳〵かさせもちつゝ志賀の浦
雪の笠をいつゝ訪ひつゝ
白ゝ結ひ〳〵
海〳〵ちゝ池ゝ弁財天雪の笠
蕭々英の白ゝ
万年の宮ゝ出ゝ〳〵〳〵敬制

海〳〵ちゝ神〳〵の神〳〵の絵
神〳〵に雪ゝ折ゝ志賀菊
仏ゝ仰の画
聖人中 松下老子ゝ 鳥
大黒の絵に貝ゝ布袋
妙法蓮華経
酒ゝ仏ゝ義に酒一杯
布袋の笑ゝ〳〵を撫ゝ画

敏の弟子新五郎中に